

NOTICIAS DE S. PAULO

(Primeiro Diario Nipponico Publicado no Brasil)

(1) No. 1.933

6a Feira, 25 de Agosto de 1939

日獨防共協定解消か

帝國自主獨行の方針を決定

三相の意見一致來週早々重大開

(東京廿四日同盟) 獨ソ不可侵條約は三日モスクワにおいて正式調印され、直ちに効力を発生するに至つたが

右條約において兩締約國は直接・間接を問はず締約國の一國を敵對目標としたいかなる國家間の結合にも参加せざること

を約てる点はわが方としても最も重視すべき點である。即ち日獨兩國は夙に防共協定を締結し、コモンウェル

ンを共同の敵とする邦交關係にあり且つ今日までの防共協定を強化すべく具體的方策につき双方に重要考慮を加へ来つたのであるが防共協定が精神的協定であるとはいへドイツ政府が今回コモンウェルと表裏

一体のソ聯政権とかかる政治條約を締結したことは明かにわが國に對する信義を裏切り防共協定締結の根本精神に背馳するものである。

特に從來の防共協定を強化する具體的方策は全く解消の外なき結果に立到つたものであるから、わが方としても六月五日廟議決定以来の對外政策について、これを白紙に還元し自主的立場において獨行するのみである。この點に關してはすでに廿三日の首相・閣相及び首相・外相の個別的會見によつて三相の意見一致をみ、更に廿四日の首相と海相、外相の個別的會見においても完全に意見一致をも模様。この結果、政府はこれに對應し尙ら

かの措置に出るものとみられてゐる。(東京廿四日同盟) 平沼首相は二十四日午後米内海相、有田外相、石渡藏相との個別會見において二十日間の陸

相、首相との會見願を報告によりドイツ政府の意図は明瞭であるから、さる六月五日廟議決定以来の外相と海相、外相の個別的會見においても完全に意見一致をみ、而して首相の信念は牢固たるものがある。この場合も來週早々にはこれに基盤をも重要な動向を示すことならう。

東京談開催まで

帝國外交の攻勢移轉

英國代表遠算の狼狽ぶり

この東京會談はいよいよ開幕を立つ立場にあつたが、わが國は依然として軍事的立場を取つてゐる。これは英國も財界も、軍部も政黨も、財界も論議も、ありとあらゆる階層が要請に起つた。軍用語でいふ「攻勢移轉」だ、中央にも

七十三

である。だから

日本

本つてゐるのである。だから

のためには會談は春日選々今日

である。だから

